

学術情報へのアクセス向上を目指して—機関リポジトリのいま

東南アジア — オランダ・オーストラリアにおける機関リポジトリ

北村由美

東南アジア研究の蓄積がある機関には、大きく分けて三種類ある。第一に、オランダをはじめとする旧植民地宗主国によって開始された植民地研究を担ってきた機関である。第二に、戦後アメリカを中心として集まった東南アジア地域研究における研究・教育を行ってきた機関で、アメリカを中心に、オーストラリア、日本に広がっている。そして第三に、東南アジア現地における研究・教育機関である。本稿では第一と第二に属する歴史的に研究蓄積のある海外の機関のリポジトリを地域別に紹介したい。なお、本稿では機関リポジトリを略してIRとする。

●ヨーロッパ諸国における東南アジア研究情報

少し古い情報になるが、EUROSEEA (欧州東南アジア学会) が一九九八年に出版した会員約一二二〇名の人名録、*European Directory of South-east Asian Studies* を元に行われた、奥平の調査 (参考文献参照) によると、四割がオランダに居住しており、ドイツ、フランス、イギリス在住が続く。研究対象としては、六割強がインドネシア

を対象とし、そのうちの五割強がオランダに在住している。

このようにヨーロッパの東南アジア研究では、オランダにおける植民地研究に由来するインドネシア研究が高いプレゼンスを示している。これらの豊富な研究蓄積は、図書館とともに、IRやオープンアクセスジャーナルを通じて公開されている。ここではオランダの四機関を紹介する。各IRの登録件数は、ROAR (二〇〇九年一月一日アクセス) を参照した。

① DARENet [http://www.narcis.info/index、二〇〇三年よりプロジェクト開始]。オランダ国内にあるすべての大学と現在の管理機関であるオランダ王立芸術科学アカデミー (KNAW)、オランダ科学研究機構 (NOW) など研究機関のリポジトリをハイレベルとして公開するシステムで、一三五五〇〇〇件近い文献がフルテキストで提供されている。検索機能はシンプルだが、オランダの大学IRを横断検索することが可能である。

② ライデン大学 [http://openaccess.leidenuniv.nl/ Dspace、二〇〇四年四月

より運用開始]。オランダで最も古くからある大学であるライデン大学のIRには、現在約一万四〇〇〇件が登録されており、学位論文のフルテキストや、構成員による学術論文・報告書を中心に、学内機関のニューズレターなどが公開されている。東南アジア研究に関係が深い国際アジア研究所 (IAS) のニューズレターや、国際イスラーム学研究所 (ISIM) 出版の季刊雑誌 *ISM Review* やワーキング・ペーパーもこのIRでフルテキストが公開されている。

③ アムステルダム大学および大学内機関・アムステルダム大学 [http://dare.wvanl/ ARNO]。アムステルダム大学のIRは、登録件数が一〇万件以上とオランダ国内の他大学を圧倒的に凌駕しており、東南アジア研究情報の蓄積率も高い。同IRには、学位論文のフルテキスト、構成員による論文、図書、図書の章別論文、就任公開講義の原稿などが収録されている。

・アムステルダム大学出版会 [http://www.aup.nl/do.php?show_visitor_repository ARNO]。アムステルダム大学のIRを訪れた後に確認するとよいのは、

同大学出版会のIRである。アムステルダム大学出版会IRは、基本的に同出版会出版物の書誌情報が中心だが、タイトルによっては、全ページのダウンロードができる。

・ **MSSOW** [URL: <http://library.miscoe.org/>]。IMISCOEは、ヨーロッパにある国際移動、統合、社会結合に関する機関のネットワークで、アムステルダム大学内に事務局が置かれている。国際移動は、東南アジア研究における大きなテーマのひとつでもあるので、このテーマの情報を検索する際には、IMISCOEのIRを活用してみるのもよいだろう。このIRでは、加盟二三機関の逐次刊行物、図書や報告書が中心に蓄積されている。

④ **オランダ王立言語地理民族学研究所 (KITLV)** [URL: <http://www.kitlv.nl/>]。一八五一年に設置されたKITLVは、インドネシア研究における情報の蓄積と発信に力をいれている。HPにて一八五三年から出版されているBKI、および一九一九年から出版されているNWIGが公開されている。また、図書館作成の現代インドネシア研究に関する抄録付き雑誌目次索引、Excerpta Indonesica に関しては、図書館のOPACより、データベースが公開されている。

● オーストラリアにおける東南アジア研究情報

前述のとおりオーストラリアは米国と

もに、戦後の冷戦下における東南アジア研究を開拓してきた。両国とも自国内の大学を中心とした共同収集プログラムを立ち上げ、東南アジア各国の資料収集を精力的に行っており、研究蓄積も豊かである。

オーストラリアのIRを検索する際は、東南アジア研究が有名なオーストラリア国立大学 [http://dspace.anu.edu.au/~Demetrius]、クイーンズランド大学 [http://espace.library.nq.edu.au/~Eprints]、モナシユ大学 [http://arrow.monash.edu.au/vital/access/manager/Index?ARROW] などを個別に検索すると同時に、以下にあげる統合IR検索を活用することができる。

① **ARROW Discovery Service** [URL: <http://search.arrow.edu.au/>]。ARROWは、オーストラリア教育科学訓練省によって支援されたオーストラリア・オンライン・研究プロジェクトの略称である。オーストラリア国立図書館が、参加機関である二八大学のIRのハーベストを行い、約二六万件のレコードを統合検索することができる。収録対象は、学位論文、雑誌論文、図書の章別論文などに加え楽譜、映像、画像の書誌情報も含まれている。プロジェクトは二〇〇八年二月で終了したが、現在も引き続き公開されている。

ARROWは検索機能が非常にすぐれており、検索結果が、機関ごと、年代ごと、サブジェクト、著者別に提示されるため、

絞り込み検索が簡単であると同時に、各機関における研究蓄積の濃淡がテーマ別・地域別に一目瞭然である。ただし、各機関のIRに収録されているレコードがすべてアップロードされているわけではない点に注意する必要がある。まずARROWで横断検索をした上で、各自の個別のテーマや国・地域に強い大学のIRをさらに検索する方法をとるのがよいだろう。

② **Australia Digital Thesis Program** [http://adt.caul.edu.au/ ETD-db]。オーストラリアの四一大学の修士論文と博士論文の検索とフルテキストへのアクセスが可能。同プログラムは、ARROWにも登録されている。

以上、本稿では、オランダとオーストラリアのIRを中心に概観した。はじめにあげた、東南アジア研究の第三の担い手である、現地における教育・研究機関によるIRについては、他稿を参照されたい。

(きたむら ゆみ/京都大学東南アジア研究所助手)

《参考文献》

奥平龍二「欧州における東南アジア研究の現状と関連文献の所在―ロンドン大学(SOAS)を中心として」(『Quadrant』二〇〇〇年)。